

営業状況等統計調査

(平成30年度財務諸表等より)

— 令和元年度 —

< 解 説 編 >



日本
旅館
協会

一般社団法人 日本旅館協会
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

令和元年度 営業状況等統計調査

目 次

<解説編>

会員数と回答旅館ホテルの内訳.....	2
はじめに	3
報告書の読み方	4
 I.基本調査.....	5
1. 回答旅館ホテルの規模.....	5
2. 貸借対照表.....	6
3. 売上構成比.....	7
4. 宿泊客1人当り売上高	8
5. 定員稼働率・客室稼働率.....	10
6. 売上効率	11
7. 原価効率	12
8. 経費率.....	13
9. 利益率.....	15
10. 就業者	16
11. 従業員効率.....	17
12. 建物面積効率.....	18
13. 資本効率・資金回収年数.....	19
 II.全件調査.....	20
1. 集客の方法.....	20
2. ホームページ	21
3. 外国人宿泊客.....	22
4. インターネット対応	23
5. クレジットカード&電子決済	24
 むすび.....	24
令和元年度 営業状況等統計調査票	25

会員数と回答旅館ホテルの内訳

会員数（令和元年 7 月 1 日現在）

地域（支部連合会）	会 員 数	区 分
北 海 道	190	北海道
東 北	268	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関 東	432	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	453	新潟県、富山県、石川県、長野県
中 部	300	福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
関 西	353	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中 国	149	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四 国	130	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九 州	239	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合 計	2,514	



●旅館営業とは、宿泊料金に夕食・朝食を含む。

大旅館……客室数 100室以上

中旅館……客室数 31室以上99室以下

小旅館……客室数 30室以下

●ホテル営業とは、宿泊をルームチャージで販売するところ。

<回答旅館ホテルの内訳>

	有効回答数(軒)	有効回答数(軒)			黒字旅館の数 (軒)	黒 字 比 率 (%)	総回答数 (軒)
		大 旅 館	中 旅 館	小 旅 館			
旅 館	162	36	76	50	105	64.8	189
大旅館	36	36	-	-	25	69.4	38
中旅館	76	-	76	-	48	63.2	88
小旅館	50	-	0	50	32	64.0	63
北海道	12	6	5	1	10	83.3	16
東北	20	6	11	3	9	45.0	21
関東	23	3	15	5	17	73.9	25
北陸信越	17	0	9	8	11	64.7	23
中部	20	6	8	6	13	65.0	22
関西	32	4	13	15	21	65.6	35
中国	11	4	3	4	5	45.5	14
四国	12	3	4	5	9	75.0	14
九州	15	4	8	3	10	66.7	19
黒字旅館	105	25	48	32	105	100.0	131
赤字旅館	57	11	28	18	0	0.0	58
ホ テ ル	11	1	10	0	7	63.6	14

(注) 損益計算が十分な回答を有効とした。全軒調査は有効回答に加え損益計算が不十分な回答も対象としている。

＜はじめに＞

この調査は当協会のすべての会員に調査票を送付して実施しています。本年は203軒の会員から回答が寄せられました。ご協力頂いた会員各位にはこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。

旅館ホテルは旅行を支える社会基盤です。また、近年急激な勢いで増加する訪日外国人客の宿泊を受け入れています。単に宿泊機能を提供するにとどまらず、「おもてなし」に代表されるわが国の文化を来訪者に提供しています。あわせて、わが国の伝統文化を維持発展させる役割を担っています。

この調査は当協会会員の経営を分析することで、会員の経営基盤の安定に寄与すべく実施するものです。このたび、令和元年度の調査分析がまとまりましたので、当協会のホームページに上程します。

(1) 対象年度を振り返る

ア) 訪日外国人の人数

平成30年(2018年)の訪日外国人は3,119万人(+8.7%)と6年連続で過去最高となった。主な国籍別の訪日客数は、

中国 838万人(前年比+13.9%)

韓国 754万人(+5.6%)

台湾 476万人(+4.2%)

香港 221万人(+1.1%)

ヨーロッパ計 172万人(+12.7%)

米国 153万人(+11%)

タイ 113万人(+14.7%)

オセアニア計 63万人(+11.7%) 出典:JNTO日本政府観光局

イ) 訪日外国人の旅行消費額

旅行消費額は4兆5,189億円と推計される。費目別にみると、買物代34.9%、宿泊費29.2%、飲食費21.6%の順で多い。

訪日外国人1人当たり旅行支出は15万3,029円であった。国籍別にみると、オーストラリアが最も高く24万2,041円、次いでスペイン23万7,234円、中国22万

4,870円の順となっている。出典:観光庁

ウ) 日本人国内旅行消費額

・平成30年(2018年)の日本人国内旅行消費額は20兆4,834億円(前年比▲3.0%)となった。

・日本人国内旅行消費額のうち、宿泊旅行消費額は15兆8,040億円(前年比▲1.7%)、日帰り旅行消費額が4兆6,794億円(前年比▲7.0%)となった。出典:観光庁

(2) 今年度調査の回答率＜表1＞

今年度の調査票発送部数は2,514軒、回答は旅館189軒、ホテル14軒となっている。うち有効回答は旅館162軒、ホテル11軒となっている。2,514軒に対する有効回答率は6.9%となっている。

規模別の有効回答数をみると、

・大旅館 36軒(▲5軒、▲12.2%)

・中旅館 76軒(▲21軒、▲21.6%)

・小旅館 50軒(▲10軒、▲16.7%)

(ホテル)回答は11軒で16軒の減少であった。

(3) 黒字・赤字の割合＜図1、表2＞

経常利益で黒字・赤字を区分している。黒字旅館の割合は大旅館中旅館で3年連続して低下した。小旅館は改善している。

・大旅館 69.4%(▲3.8p、▲5.2%)

・中旅館 63.2%(▲4.8p、▲7.1%)

・小旅館 64.0%(+14.0p、+28.0%)

(ホテル)黒字は63.6%で前年を下回る。

図1 黒字旅館の割合 (単位: %)

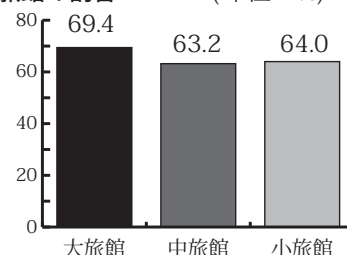


表2 黒字旅館の推移 (割合) (単位: %)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
平成 25 年	72.0	69.7	58.2	66.5	81.0
26 年	80.0	57.7	56.6	61.9	69.6
27 年	80.0	76.4	66.7	73.6	86.2
28 年	75.6	71.6	63.4	69.3	68.0
29 年	73.2	68.0	50.0	63.6	77.8
30 年	69.4	63.2	64.0	64.8	63.6

表1 有効回答旅館の推移 (単位: 軒)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
平成 25 年	50	122	79	251	21
26 年	50	111	83	244	23
27 年	35	123	84	242	29
28 年	45	116	93	254	25
29 年	41	97	60	198	27
30 年	36	76	50	162	11

報告書の読み方

(1) 調査の概要

この調査は「Ⅰ.基本調査」と「Ⅱ.全件調査」の2部構成となっている。基本調査は、損益計算や客室数、利用人員等の記述が十分な回答(有効回答)に絞って集計している。一方、全件調査は回答した旅館ホテルのすべてを対象として集計している。

また、規模別集計は客室数を基準としている。

- ・大旅館:100室以上
- ・中旅館:31室以上99室以下
- ・小旅館:30室以下

さらに、経常利益を基準に「黒字旅館」「赤字旅館」としている。

ホテルについては回答軒数が限られることから内訳分析をおこなっていない。

(2) 今年度の主な変更点

- ・売上高の内訳として「料理売上」や「日帰り売上」を設問していたが、宿泊売上を含む「宿泊料理売上」とした。
- ・宿泊外国人の国籍を見直し「英国」を新設した。
- ・〇〇Payといった電子決済が進展したことで、キャッシュレス決済の設問を見直した。
- ・「標準宿泊料金」の設問を削除した。

(3) 解説編の表記方法について<表3>

- ・この調査は平成30年度の決算書を対象に令和元年度に実施している。各表の最新年度は「30年」と表記している。
- ・前年との比較:例えば「大旅館 20,000円(▲500円、▲2.4%)」と表記した場合、20,000円は今年度の集計結果であり、()内は前年度との比較を示す。
- ・数値が前年を上回るときは「+」、下回るときは「▲」を付す。
- ・%同士の引き算(例えば、14.4%－14.7%)の結果を%で表記すると100分率と混同があるので、単位をポイントとし「p」と表記する。
- ・本文中の数値は四捨五入のうえ表記する。前年との増減は表記より求める。

- ・通常の決算書で「販売費及び一般管理費」と言われる経費を表3のとおり区分した。
- ・解説は旅館を中心におこない、ホテルについては行頭に(ホテル)と明記している。

(4) 資料編について

資料編は集計結果のみを掲載している。留意点は次のとおり。

- ・調査は任意回答であるため一部に無回答がある。そこで項目ごとに集計対象を見直す処理(DK処理)をおこなっている。
- ・旅館平均、規模別、地域別、黒字・赤字別に集計しているが、その場合も以下のようにその都度計算する対象を見直している。

旅館の原価率＝旅館の原価÷旅館の売上

黒字の原価率＝黒字の原価÷黒字の売上

赤字の原価率＝赤字の原価÷赤字の売上

- ・回答された調査票のうち売上等内訳を記載しないまとめ書きについては按分している。
- ・さらに、異常値といえる過大あるいは過小の数値については、その項目を不明としている。
- ・また回答が2軒以下の場合は、算出された数値はブランクとしている。例えば、10ページの地域別稼働率では、北海道小旅館は回答が1軒であるため表示していないが、北海道の平均にはこの小旅館の結果も含まれる。

表3 経費区分

人件費	役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与引当金繰入
営業費	販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、広告宣伝費、販売手数料
業務費	サービス費(リネン、客室消耗品費、アメニティ)、備品消耗品費(食器、厨房用品、装飾費)、修繕費、保守管理費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費
管理費	リース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、保険料、租税公課、事務用消耗品費、雑費
減価償却費	建物、構築物、機械等の減価償却費

I. 基本調査

基本調査は旅館ホテルの経営状況を分析する。

1. 回答旅館ホテルの規模 〈表4、表5〉

(1) 総客室数・収容定員

1軒当り客室数は70室、収容定員299人となっている。規模別では、

- ・大旅館 168室 (+2室、+1.2%)
- ・中旅館 57室 (+1室、+1.8%)
- ・小旅館 19室 (±0室、±0.0%)

収容定員は、

- ・大旅館 679人 (▲37人、▲5.2%)
- ・中旅館 264人 (+9人、+3.5%)
- ・小旅館 78人 (▲3人、▲3.7%)

と収容定員は中旅館でプラスとなっている。

(ホテル)客室数65室、収容定員116人となっている。

(2) 1室当り定員

$$1 \text{ 室当り定員} = \text{収容定員} \div \text{総客室数}$$

1室当り定員は、和室を中心とする旅館で多く、洋室が中心のホテルは少ない。旅館の1室当り定員は平均で4.3人となっており、規模別では中旅館が4.7人と多い。

(ホテル)1室当り定員は1.8人となっている。

(3) 総売上高

今年度の1軒当り総売上高は、

- ・大旅館 19億1,755万円
(▲3億3,548万円、▲14.9%)
- ・中旅館 7億600万円
(+7,811万円、+12.4%)
- ・小旅館 2億1,638万円
(+2,484万円、+13.0%)

となっている。大旅館が約15%の減少となっている。観光庁調べによる宿泊旅行消費額の減少は、旅館業では大旅館に集中的に表れている。黒字・赤字別では、売上高に顕著な差がある。

- ・大旅館 黒字21億666万円
赤字14億8,775万円
- ・中旅館 黒字7億4,402万円
赤字6億4,081万円
- ・小旅館 黒字2億4,329万円
赤字1億6,855万円

(ホテル)総売上高は2億1,259万円となっている。

(4) 年間宿泊人員

年間宿泊人員は、大旅館で大幅な減少となったが、中旅館と小旅館でプラスとなっている。

- ・大旅館 9万4,301人
(▲1万7,540人、▲15.7%)
- ・中旅館 3万4,095人 (+449人、+1.3%)
- ・小旅館 9,970人 (+595人、+6.3%)

(ホテル)宿泊人員は1万9,203人となっている。

表4 1軒当り総客室数・収容定員・1室当り定員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総客室数(室)	平成25年	186	59	18	71	65
	26年	158	55	18	64	99
	27年	155	58	19	59	88
	28年	149	56	20	59	64
	29年	166	56	19	67	68
	30年	168	57	19	70	65
収容定員(人)	平成25年	775	273	74	310	122
	26年	687	242	76	277	178
	27年	656	265	79	257	143
	28年	657	254	87	264	98
	29年	716	255	81	298	141
	30年	679	264	78	299	116
1室当り定員(人)	平成25年	4.2	4.6	4.2	4.3	1.9
	26年	4.4	4.4	4.2	4.4	1.8
	27年	4.2	4.5	4.2	4.4	1.6
	28年	4.4	4.5	4.4	4.5	1.5
	29年	4.3	4.6	4.2	4.4	2.1
	30年	4.0	4.7	4.1	4.3	1.8

表5 総売上高、年間宿泊人員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総売上高(万円)	平成25年	206,962	65,962	19,573	79,449	23,922
	26年	184,817	60,218	19,413	71,870	76,481
	27年	212,010	69,157	20,071	72,780	72,516
	28年	189,102	58,865	22,731	68,709	23,133
	29年	225,303	62,789	19,154	83,218	42,585
	30年	191,755	70,600	21,638	82,412	21,259
年間宿泊人員(人)	平成25年	104,305	34,373	7,937	39,983	21,734
	26年	94,992	30,415	8,966	36,352	35,068
	27年	94,275	34,704	9,803	34,676	29,959
	28年	91,766	32,953	10,859	35,283	19,948
	29年	111,841	33,646	9,375	42,483	26,375
	30年	94,301	34,095	9,970	40,028	19,203

2. 貸借対照表〈表6、表7、表8〉

(1) 資産の状況

1軒当り総資産額は大旅館で大幅な減少、中旅館で大幅な増加、小旅館で増となった。

- ・大旅館 33億7,034万円
(▲8億2,319万円、▲19.6%)
 - ・中旅館 11億7,802万円
(+3億1,655万円、+36.7%)
 - ・小旅館 2億8,419万円 (+1,232万円、+4.5%)
- (ホテル)総資産額は4億4,798万円であった。

①流動資産

流動資産は現預金や売掛金など流動性の高い資産である。総資産に占める割合は19.3%と前年より減少している。

(ホテル)流動資産は23.3%と旅館より高い。

②固定資産

固定資産は総資産の80.5%を占め、前年より割合は増加した。

(ホテル)76.7%で前年より低下した。

(2) 負債・資本の状況

①流動負債

流動負債は、1年以内に返済や支払が予定される、短期借入金や買掛金、預かり金である。旅館の流動負債は総資産の20.0%を占める。

資金繰りに注目すると、流動負債を流動資産が上回ることが健全である。旅館の平均では流動資産は19.3%となっており、ほぼ均衡している。規模別では小旅館が健全で、中旅館は要注意といえる。
(ホテル)流動資産(23.3%)が流動負債(10.4%)を上回り健全である。

②長短借入金

長期借入金と短期借入金の合計は、総資産の66.9%で前年を1.7p上回る。大旅館は前年を下回った。長短借入金比率は中旅館が高い。
(ホテル)長短借入金は64.0%となっている。

③自己資本比率

純資金をもって自己資本としている。旅館の自己資本比率は18.8%。大旅館と小旅館が25%台と高い。
(ホテル)自己資本比率は24.9%となっている

表6 1軒当り資産

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル	
総資産額 (万円)	平成25年	408,126	125,049	29,483	149,841	36,289
	26年	283,044	88,420	26,652	108,992	207,953
	27年	392,031	120,336	33,003	129,993	219,010
	28年	296,288	85,902	30,201	101,287	57,157
	29年	419,353	86,147	27,187	141,210	78,039
	30年	337,034	117,802	28,419	145,390	44,798
長短借入金合計 (万円)	平成25年	252,004	80,257	22,463	95,357	27,302
	26年	224,596	70,305	17,064	85,129	52,095
	27年	250,610	75,457	21,940	82,641	66,109
	28年	236,663	65,767	19,785	77,989	38,362
	29年	264,438	61,773	15,830	92,120	70,639
	30年	208,699	88,571	16,840	97,317	28,671

表7 貸借対照表

(単位: %)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	19.2	19.0	23.2	19.3	23.3
固定資産	80.8	80.7	76.6	80.5	76.7
繰延資産	0.0	0.3	0.3	0.1	0.0
資産の部合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
流動負債	16.4	25.6	16.4	20.0	10.4
(うち短期借入金)	7.6	12.8	5.4	9.5	2.2
固定負債	58.5	65.4	58.5	61.2	64.8
(うち長期借入金)	54.3	62.4	53.9	57.4	61.8
(長短借入金合計)	61.9	75.2	59.3	66.9	64.0
純資産	25.1	9.0	25.2	18.8	24.9
負債・資本の合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表8 資産と借入金

(単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	平成25年	22.9	20.6	15.3	21.4	19.2
	26年	20.0	17.3	21.4	19.1	21.6
	27年	24.0	22.1	17.6	22.5	16.8
	28年	18.7	16.2	21.0	18.0	16.5
	29年	24.9	19.0	21.0	23.0	20.1
	30年	19.2	19.0	23.2	19.3	23.3
固定資産	平成25年	76.7	78.8	84.4	78.0	80.7
	26年	79.8	82.1	78.1	80.5	77.7
	27年	75.8	77.6	81.8	77.2	83.2
	28年	81.2	83.7	78.6	81.9	83.1
	29年	75.1	80.9	78.7	77.0	79.8
	30年	80.8	80.7	76.6	80.5	76.7
長短借入金(合計)	平成25年	61.7	64.2	76.2	63.6	75.2
	26年	79.4	79.5	64.0	78.1	25.1
	27年	63.9	62.7	66.5	63.6	30.2
	28年	79.9	76.6	65.5	77.0	67.1
	29年	63.1	71.7	58.2	65.2	90.5
	30年	61.9	75.2	59.3	66.9	64.0

3. 売上構成比 〈図2、表9〉

売上の内訳である「宿泊料理売上」「飲物売上」「売店売上」等の記述がない回答については、主に平均値から補足し推定している。

(1) 宿泊料理売上

旅館の平均でみると総売上高に占める宿泊料理売上は76.1%で5年連続して増加している。館内販売が伸びないため、宿泊料理売上の構成比が上昇する。小旅館ほど宿泊料理売上の占める割合が高い。

- ・大旅館 73.5% (+0.9p、+1.2%)
- ・中旅館 78.4% (+2.1p、+2.8%)
- ・小旅館 81.3% (+1.1p、+1.4%)

黒字・赤字別では、

- ・大旅館 黒字73.4% 赤字74.0%
- ・中旅館 黒字78.8% 赤字77.5%
- ・小旅館 黒字83.8% 赤字74.9%

小旅館では宿泊に特化しているところが黒字となっている。大旅館中旅館では特徴がみられない。(ホテル) 宿泊料理売上は70.8%となっている。

(2) 飲物売上

飲物売上の構成比は、旅館の平均で低下傾向がみられる。中旅館小旅館でその傾向が強い。

- ・大旅館 5.2% (+0.4p、+8.3%)
- ・中旅館 4.7% (▲1.4p、▲23.0%)
- ・小旅館 4.5% (▲0.8p、▲15.1%)

黒字・赤字でみると、

- ・大旅館 黒字4.9% 赤字6.2%
- ・中旅館 黒字4.8% 赤字4.5%
- ・小旅館 黒字4.3% 赤字4.9%

大旅館と小旅館では赤字旅館の方が高くなっている。(ホテル) 2.6%と旅館より低い。

(3) 売店売上

売店売上の比率は長期的には低下している。規模が大きいほど売店売上の比率は高いが、今年度は中旅館と小旅館がわずかながら逆転した。

- ・大旅館 6.2% (+0.6p、+10.7%)
- ・中旅館 3.6% (▲0.6p、▲14.3%)
- ・小旅館 3.7% (+0.2p、+5.7%)

黒字・赤字でみると、赤字旅館の方が高い傾向にある。

- ・大旅館 黒字6.1% 赤字6.8%
- ・中旅館 黒字3.6% 赤字3.6%
- ・小旅館 黒字3.0% 赤字5.3%

(ホテル) 2.0%と旅館より低い。

(4) その他売上

その他売上は旅館の平均で14%となっている。大旅館ほど高い。前年と比較すると減少がみられた。

- ・大旅館 15.0% (▲1.9p、▲11.2%)
- ・中旅館 13.3% (+0.0p、+0.0%)
- ・小旅館 10.6% (▲0.4p、▲3.6%)

黒字・赤字でみると、

- ・大旅館 黒字15.7% 赤字13.0%
- ・中旅館 黒字12.8% 赤字14.4%
- ・小旅館 黒字8.9% 赤字14.9%

大旅館では黒字が高く、小旅館では赤字が高い。

(ホテル) その他売上は24.6%となっている。

図2 売上構成比 (単位: %)

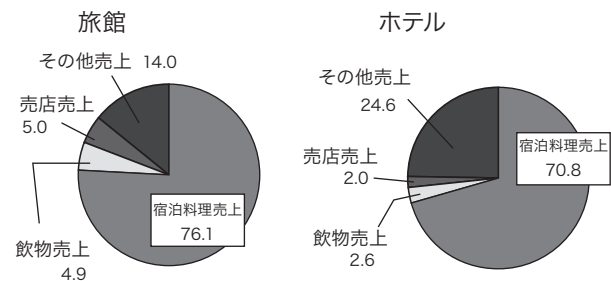


表9 売上構成比

(単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
宿泊料理売上	平成25年	67.1	68.6	72.1	68.1	47.2
	26年	70.5	68.2	67.2	69.3	33.0
	27年	73.8	71.6	68.6	72.2	32.8
	28年	72.4	76.5	74.2	74.2	46.7
	29年	72.6	76.3	80.2	74.5	46.7
	30年	73.5	78.4	81.3	76.1	70.8
飲物売上	平成25年	6.0	6.0	6.1	5.7	6.9
	26年	6.2	6.1	6.4	5.3	8.8
	27年	5.5	5.1	5.9	5.7	7.1
	28年	5.3	5.1	5.5	5.3	5.8
	29年	4.8	6.1	5.3	5.4	4.2
	30年	5.2	4.7	4.5	4.9	2.6
売店売上	平成25年	6.8	4.8	3.4	5.7	2.0
	26年	6.6	4.6	3.3	5.5	2.3
	27年	6.8	4.3	3.9	5.3	1.5
	28年	6.3	4.4	3.6	5.2	0.6
	29年	5.6	4.2	3.5	4.9	2.2
	30年	6.2	3.6	3.7	5.0	2.0
その他売上	平成25年	-	-	-	-	-
	26年	-	-	-	-	-
	27年	-	-	-	-	-
	28年	-	-	-	-	-
	29年	16.9	13.3	11.0	15.2	46.9
	30年	15.0	13.3	10.6	14.0	24.6

4. 宿泊客1人当り売上高〈図3、表10、表11〉

宿泊客1人当り売上高は、売上高を宿泊客人員で割り算して客単価を求めている。

(1) 宿泊客1人当り総売上高

宿泊客1人当り売上高＝総売上高 ÷ 宿泊人員

各規模とも前年を上回る。小旅館が最も高い。

- ・大旅館 20,334円 (+189円、+0.9%)
- ・中旅館 20,707円 (+2,045円、+11.0%)
- ・小旅館 21,704円 (+1,273円、+6.2%)

黒字・赤字別でみると、大旅館と小旅館では黒字旅館が高単価となっている。小旅館の差は顕著である。

- ・大旅館 黒字20,832円 赤字18,884円
- ・中旅館 黒字20,546円 赤字21,035円
- ・小旅館 黒字23,422円 赤字18,265円

(ホテル) 11,070円と旅館を下回る。

(2) 宿泊客1人当り宿泊料理売上

客1人当り宿泊料理売上＝宿泊料理売上 ÷ 宿泊人員

客1人当り宿泊料理売上は、今年度設問を宿泊料理売上としたため、各規模とも前年より高くなっている。

- ・大旅館 14,951円 (+316円、+2.2%)
- ・中旅館 16,233円 (+1,979円、+13.9%)
- ・小旅館 17,639円 (+1,249円、+7.6%)

黒字・赤字別でみると、総売上高と同様に大旅館と小旅館では黒字旅館が高単価となっている。小旅館の差も顕著である。

- ・大旅館 黒字15,286円 赤字13,973円
- ・中旅館 黒字16,199円 赤字16,303円
- ・小旅館 黒字19,617円 赤字13,679円

(ホテル) 7,839円と旅館よりも大幅に低い。

(3) 宿泊客1人当り飲物売上

客1人当り飲物売上＝飲物売上 ÷ 宿泊人員

宿泊客1人当り飲物売上は平均で1,016円となっている。大旅館が高い。

- ・大旅館 1,052円 (+76円、+7.8%)
- ・中旅館 977円 (▲163円、▲14.3%)
- ・小旅館 971円 (▲115円、▲10.6%)

黒字・赤字別でみると、大旅館では赤字旅館が高く、中旅館と小旅館では黒字旅館が高くなっている。

・大旅館 黒字1,013円 赤字1,169円

・中旅館 黒字987円 赤字957円

・小旅館 黒字1,006円 赤字901円

(ホテル) 287円と旅館より低い。

図3 客1人当り総売上高の推移(円)

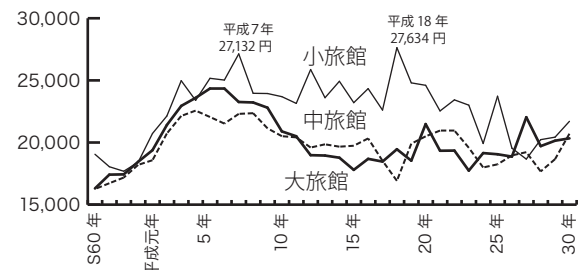


表10 宿泊客1人当り総売上高 (単位:円)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
平成25年	19,054	18,245	23,726	19,008	10,038
26年	18,866	18,962	19,542	18,959	20,792
27年	22,036	19,223	18,664	20,274	22,519
28年	19,709	17,673	20,230	18,899	11,527
29年	20,145	18,662	20,431	19,589	16,146
30年	20,334	20,707	21,704	20,589	11,071

表11 宿泊客1人当り売上高 (単位:円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
宿泊料理売上	平成25年	13,317	13,155	17,789	13,528	5,200
	26年	13,720	13,496	14,549	13,704	7,194
	27年	16,587	14,271	14,050	15,160	7,935
	28年	14,919	13,662	15,535	14,452	5,416
	29年	14,635	14,254	16,390	14,604	7,538
	30年	14,951	16,233	17,639	15,670	7,839
飲物売上	平成25年	—	—	—	—	—
	26年	—	—	—	—	—
	27年	—	—	—	—	—
	28年	—	—	—	—	—
	29年	976	1,140	1,086	1,047	676
	30年	1,052	977	971	1,016	287
売店売上	平成25年	1,341	912	849	1,131	223
	26年	1,282	912	716	1,094	491
	27年	1,529	851	797	1,112	363
	28年	1,293	785	758	1,016	69
	29年	1,119	778	719	960	358
	30年	1,271	742	797	1,023	219
その他売上	平成25年	—	—	—	—	—
	26年	—	—	—	—	—
	27年	—	—	—	—	—
	28年	—	—	—	—	—
	29年	3,414	2,489	2,237	2,977	7,574
	30年	3,060	2,755	2,297	2,879	2,726

(注)29年に設問項目を見直した。

(4) 宿泊客1人当り売店売上

$$\text{客1人当り売店売上} = \text{売店売上} \div \text{宿泊人員}$$

売店単価は長期的には低下傾向にあるが、今年度は大旅館と小旅館で前年を上回った。

- ・大旅館 1,271円 (+152円、+13.6%)
- ・中旅館 742円 (▲36円、▲4.6%)
- ・小旅館 797円 (+78円、+10.8%)

黒字・赤字別でみると、大旅館と中旅館では差はみられないが、小旅館では赤字旅館が高い。

- ・大旅館 黒字1,266円 赤字1,285円
- ・中旅館 黒字739円 赤字750円
- ・小旅館 黒字710円 赤字972円

(ホテル) 売店単価は219円と旅館より低い。

(5) 宿泊客1人当りその他売上

$$\text{客1人当りその他売上} = \text{その他売上} \div \text{宿泊人員}$$

その他売上は飲物売上や売店売上を倍以上上回る。大旅館が高く小旅館が少ない。前年と比較すると大旅館では前年を下回っている。

- ・大旅館 3,060円 (▲354円、▲10.4%)
- ・中旅館 2,755円 (+266円、+10.7%)
- ・小旅館 2,297円 (+60円、+2.7%)

黒字・赤字を見ると、大旅館では黒字旅館が高く、中旅館や小旅館では赤字旅館が高くなっている。

- ・大旅館 黒字3,267円 赤字2,457円
- ・中旅館 黒字2,622円 赤字3,025円
- ・小旅館 黒字2,089円 赤字2,713円

(ホテル) その他売上は2,726円と旅館と同水準となっている。

5. 定員稼働率・客室稼働率〈図4、表12、表13〉

旅館ホテル業の稼働率は定員と客室を基準とする。洋室に対して和室は1室当りの定員が多い。旅館では客室を定員どおりに販売することが難しい。

(1) 定員稼働率

$$\text{定員稼働率} = \text{宿泊人員} \div (\text{収容定員} \times \text{営業日数}) \times 100$$

定員稼働率は、大旅館が前年を下回り小旅館が上回ったため、各規模が近接した。かつて規模格差が顕著であった。団体旅行の減少、インターネットの進展により定員稼働における規模のメリットが消滅している。

- ・大旅館 38.7% (▲4.8p、▲11.0%)
- ・中旅館 36.5% (▲0.5p、▲1.4%)
- ・小旅館 37.3% (+4.2p、+12.7%)

黒字旅館は高稼働で、赤字旅館は低稼働である。

- ・大旅館 黒字40.1% 赤字35.1%
- ・中旅館 黒字39.2% 赤字32.0%
- ・小旅館 黒字40.4% 赤字32.3%

(ホテル) 定員稼働率は47.9%で旅館より高稼働となっている。

(2) 客室稼働率

$$\text{客室稼働率} = \text{利用客室数} \div (\text{客室数} \times \text{営業日数}) \times 100$$

旅館では客室ごとの定員での集客が難しいため、定員稼働率と客室稼働率の差は大きく、客室稼働が高い。大旅館が前年を大きく下回る。実数では小旅館が低い。

- ・大旅館 64.5% (▲9.3p、▲12.6%)
- ・中旅館 64.6% (+1.6p、+2.5%)
- ・小旅館 57.4% (+2.4p、+4.4%)

黒字・赤字でみると、黒字旅館が高い。

- ・大旅館 黒字67.0% 赤字59.3%
- ・中旅館 黒字67.4% 赤字59.7%
- ・小旅館 黒字59.3% 赤字54.6%

(ホテル) 客室稼働率は67.1%で旅館より高稼働となっている。

(3) 地域別稼働率

定員稼働率は九州と中部が高い。九州では大旅館が牽引役となっている。中部では大旅館のみならず中旅館も高稼働である。小旅館に注目すると、関西が高く次いで関東となっている。

客室稼働率が最も高いのは九州で70%の大台となっている。次いで、四国、中部となっている。低稼働は北陸信越となっている。

定員稼働率と客室稼働率の高いところが一致しないのは、1室定員や1室利用人員が異なることによる。

図4 定員稼働率の推移 (%)

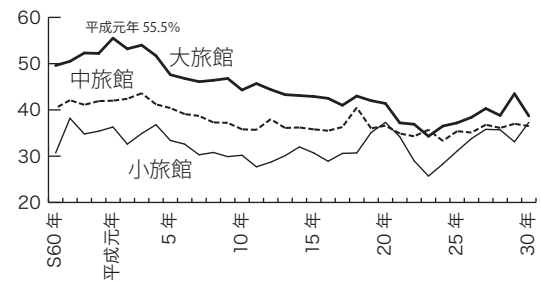


表12 定員稼働率・客室稼働率 (単位: %, 人)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
定員稼働率	平成25年	37.2	35.4	31.1	36.0
	26年	38.4	35.1	33.8	36.6
	27年	40.3	36.8	35.8	38.0
	28年	38.8	36.1	35.7	37.3
	29年	43.5	37.0	33.1	40.2
	30年	38.7	36.5	37.3	38.1
客室稼働率	平成25年	56.8	60.4	48.5	57.8
	26年	64.4	59.0	54.6	61.6
	27年	65.5	62.9	59.1	63.6
	28年	65.3	61.1	54.2	62.4
	29年	73.8	63.0	55.0	68.0
	30年	64.5	64.6	57.4	64.0
1室当り宿泊利用人員	平成25年	2.81	2.66	2.66	2.73
	26年	2.62	2.64	2.68	2.63
	27年	2.74	3.19	3.37	3.01
	28年	2.60	2.71	2.86	2.66
	29年	2.58	2.74	2.64	2.65
	30年	2.47	2.73	2.60	2.58

表13 地域別稼働率 (単位: %)

地 域	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館
定員稼働率	北 海 道	34.8	36.0	-
	東 北	37.4	34.4	25.3
	関 東	43.5	35.2	40.7
	北 陸 信 越	-	32.8	29.2
	中 部	41.4	42.5	23.6
	関 西	32.7	38.7	49.9
	中 国	35.0	36.3	34.0
	四 国	37.9	41.3	33.1
	九 州	53.8	29.2	30.0
客室稼働率	北 海 道	59.4	65.1	-
	東 北	61.9	69.0	-
	関 東	74.9	62.1	60.2
	北 陸 信 越	-	56.3	48.9
	中 部	71.5	66.9	42.1
	関 西	57.3	67.2	66.8
	中 国	66.2	54.3	58.2
	四 国	-	71.3	57.4
	九 州	71.9	66.9	-

6. 売上効率

(1) 1室当り売上高 〈図5、表14〉

$$1 \text{ 室当り売上高} = \text{総売上高} \div \text{客室数}$$

宿泊業にとって客室は最大の営業基盤である。客室1部屋当りの年間売上げは重要指標となっている。旅館は1,182万円と前年より54万円下回っている。これは率で見ると▲4.4%の低下となっているが、観光庁調べ(3ページ参照)の宿泊旅行消費額の▲1.7%より大幅となった。

大旅館が大幅減となる一方で、中旅館小旅館は増加となっている。

- ・大旅館 1,144万円 (▲214万円、▲15.8%)
- ・中旅館 1,244万円 (+113万円、+10.0%)
- ・小旅館 1,146万円 (+141万円、+14.0%)

黒字・赤字の別でみると、各規模とも黒字の売上高が多い。その差は顕著となっている。

- ・大旅館 黒字1,211万円 赤字971万円
- ・中旅館 黒字1,341万円 赤字1,087万円
- ・小旅館 黒字1,331万円 赤字845万円

(ホテル)1室当り売上高は326万円と旅館より低くなっている。

(2) 建物面積1㎡当り売上高

$$\text{建物面積1㎡当り売上高} = \frac{\text{総売上高}}{\text{建物延べ面積}}$$

建物延べ面積当り売上高は、営業形態の違いを排除して営業効率を分析するのに適した指標である。ただし、建物延べ面積の回答は旅館有効回答162軒に対して128軒と有効回答の79.0%にとどまる。規模別では小旅館が9.3万円となっている。一方、大旅館と中旅館はともに7.8万円となっている。

- ・大旅館 7.8万円 (▲1.1万円、▲12.4%)
- ・中旅館 7.8万円 (▲0.1万円、▲1.3%)
- ・小旅館 9.3万円 (+0.3万円、+3.3%)

黒字・赤字別の差が明確に表れている。

- ・大旅館 黒字8.7万円 赤字6.3万円
- ・中旅館 黒字8.1万円 赤字7.4万円
- ・小旅館 黒字11.2万円 赤字6.5万円

(ホテル)面積当り売上高は4.2万円となっている。

(3) 就業者1人当り売上高

$$\text{就業者1人当り売上高} = \text{総売上高} \div \text{就業者数}$$

旅館ホテル業の従事者は社員のみならずパートアルバイト、派遣社員や委託先で構成されている。この調査では常勤役員、社員、常勤パートを就業者とし、就業者当りの指標を算出している。

就業者1人当り売上高は大旅館ほど効率性が高く規模の差が明確となっている。ただし、今年度は大旅館が前年を大幅に下回る結果となった。

- ・大旅館 1,075万円 (▲220万円、▲17.0%)
- ・中旅館 780万円 (▲89万円、▲10.2%)
- ・小旅館 698万円 (+28万円、+4.2%)

黒字・赤字別では大旅館や小旅館で顕著な差が表れている。

- ・大旅館 黒字1,115万円 赤字965万円
- ・中旅館 黒字776万円 赤字789万円
- ・小旅館 黒字767万円 赤字567万円

(ホテル)1,021万円となっている。

図5 1室当り売上の推移 (万円)

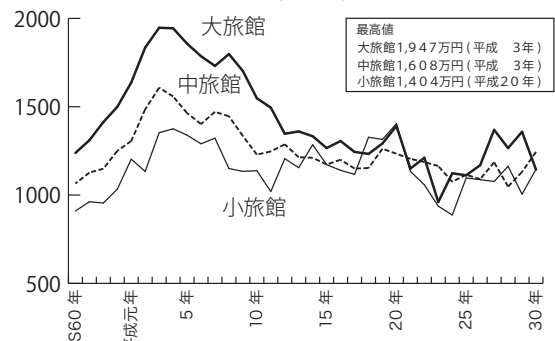


表14 売上効率

(単位: 万円)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
1室当り売上高	平成25年	1,112	1,115	1,097	1,112
	26年	1,169	1,090	1,087	1,130
	27年	1,369	1,185	1,077	1,243
	28年	1,266	1,048	1,163	1,159
	29年	1,358	1,131	1,005	1,236
	30年	1,144	1,244	1,146	1,182
建物1㎡当り売上高	平成25年	7.9	7.5	8.5	7.8
	26年	8.5	7.9	8.4	8.2
	27年	9.8	8.4	8.4	8.9
	28年	8.4	7.5	9.5	8.1
	29年	8.9	7.9	9.0	8.5
	30年	7.8	7.8	9.3	7.9
就業者1人当り売上高	平成25年	1,108	867	774	952
	26年	1,214	875	806	1,017
	27年	1,263	911	750	1,010
	28年	1,326	888	748	1,033
	29年	1,295	869	670	1,040
	30年	1,075	780	698	900

7. 原価効率

(1) 売上総原価率 〈図6、表15〉

$$\text{売上総原価率} = \text{売上原価} \div \text{総売上高} \times 100$$

総原価率は平均で23.3%と前年をやや下回る。長期的に低下傾向にある。原価率の高い売上げが伸びないことが考えられる。総原価率は規模別で見ると大旅館ほど高い。

- ・大旅館 24.4% (+0.2p、+0.8%)
- ・中旅館 22.3% (▲0.5p、▲2.2%)
- ・小旅館 22.1% (+1.1p、+5.2%)

黒字・赤字別では、黒字大旅館と赤字小旅館の総原価率が高い。

- ・大旅館 黒字24.7% 赤字23.3%
- ・中旅館 黒字22.1% 赤字22.6%
- ・小旅館 黒字20.9% 赤字25.0%

(ホテル) 総原価率は17.5%となっている。

(2) 料理材料費率

$$\text{料理材料費率} = \text{料理材料費} \div \text{宿泊売上} \times 100$$

旅館の料理材料費率は19.3%と4年連続して20%を下回った。中旅館と小旅館では18%台となっている。

- ・大旅館 19.7% (▲0.2p、▲1.0%)
- ・中旅館 18.9% (▲1.4p、▲6.9%)
- ・小旅館 18.7% (+0.3p、+1.6%)

黒字・赤字別で見ると、赤字小旅館が最も高い。

- ・大旅館 黒字20.1% 赤字18.3%
- ・中旅館 黒字18.5% 赤字19.7%
- ・小旅館 黒字17.9% 赤字20.8%

(ホテル) 料理材料費率は9.2%となっている。

(3) 飲料仕入率

$$\text{飲料仕入率} = \text{飲料仕入} \div \text{飲料売上} \times 100$$

旅館の飲料仕入率は平均33.5%となっている。大旅館が低い。

- ・大旅館 32.1% (▲2.4p、▲7.0%)
- ・中旅館 35.2% (+3.5p、+11.0%)
- ・小旅館 34.4% (▲0.1p、▲0.3%)

(ホテル) 飲料仕入率は33.8%となっている。

(4) 売店仕入率

$$\text{売店仕入率} = \text{売店仕入} \div \text{売店売上} \times 100$$

売店原価率は前年を2.0p下回る。一昨年並みだが、長期的には低下傾向がみられる。規模別では小旅館が高い結果となった。

- ・大旅館 64.5% (▲3.2p、▲4.7%)
- ・中旅館 67.0% (▲0.5p、▲0.7%)
- ・小旅館 68.6% (+3.5p、+5.4%)

(ホテル) 売店原価率は59.6%となっている。

図6 売上総原価率の推移 (%)

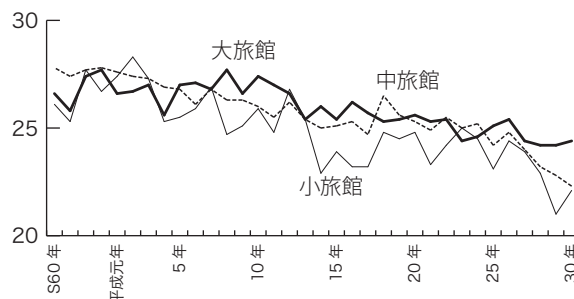


表15 原価効率

(単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総原価率	平成25年	25.1	24.2	23.1	24.6	20.7
	26年	25.4	24.8	24.4	25.1	26.1
	27年	24.4	24.0	23.9	24.2	25.4
	28年	24.2	23.2	22.9	23.7	21.5
	29年	24.2	22.8	21.0	23.5	22.5
	30年	24.4	22.3	22.1	23.3	17.5
料理材料費率	平成25年	19.7	20.1	20.0	19.9	-
	26年	19.8	21.0	20.7	20.4	-
	27年	18.8	19.4	18.8	19.1	-
	28年	19.4	20.2	19.9	19.8	-
	29年	19.9	20.3	18.4	19.9	-
	30年	19.7	18.9	18.7	19.3	9.2
飲料仕入率	平成25年	31.5	33.0	32.8	32.2	32.8
	26年	31.5	33.0	34.4	32.4	24.9
	27年	31.9	32.4	35.7	32.6	29.2
	28年	33.2	33.2	31.2	32.9	31.7
	29年	34.5	31.7	34.5	33.3	34.1
	30年	32.1	35.2	34.4	33.5	33.8
売店仕入率	平成25年	66.6	67.8	64.6	66.9	70.2
	26年	68.2	67.0	67.3	67.8	61.4
	27年	66.4	68.4	67.7	67.3	64.1
	28年	64.0	66.4	67.5	65.1	72.7
	29年	67.7	67.5	65.1	67.5	63.3
	30年	64.5	67.0	68.6	65.5	59.6

8. 経費率 〈表 16〉

協会の統一会計基準に準拠し、原価を除く経費を人件費、営業費、業務費、管理費、減価償却費の5つに分類している。

(1) 人件費率

$$\text{人件費率} = \text{人件費} \div \text{総売上高} \times 100$$

人件費は、役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与引当金繰入としている。

旅館ホテル業は労働集約産業であるため人件費圧力が高い。

人件費率は規模にかかわらず前年を上回った。大旅館ほど人の効率が良い。

- ・大旅館 32.9% (+1.3p、+4.1%)
- ・中旅館 34.6% (+0.6p、+1.8%)
- ・小旅館 37.4% (+1.6p、+4.5%)

赤字旅館は黒字旅館よりも人件費率が高い。特に赤字の小旅館は41%台となっている。

- ・大旅館 黒字32.1% 赤字 35.5%
- ・中旅館 黒字33.2% 赤字 37.5%
- ・小旅館 黒字35.7% 赤字 41.7%

(ホテル) 人件費率は37.9%と旅館より高い。

(2) 営業費率

$$\text{営業費率} = \text{営業費} \div \text{総売上高} \times 100$$

営業費は、販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、広告宣伝費、販売手数料の合計である。大旅館で増加し、中旅館小旅館で低下した。

- ・大旅館 11.4% (+0.4p、+3.6%)
- ・中旅館 10.2% (▲0.6p、▲5.6%)
- ・小旅館 10.1% (▲1.3p、▲11.4%)

黒字・赤字別では、黒字旅館が高くなっている。

- ・大旅館 黒字11.6% 赤字 10.6%
- ・中旅館 黒字10.7% 赤字 9.3%
- ・小旅館 黒字10.1% 赤字 10.0%

(ホテル) 営業費率は8.7%と旅館より低い。

(3) 業務費率

$$\text{業務費率} = \text{業務費} \div \text{総売上高} \times 100$$

業務費は、サービス費、備品消耗品費、修繕費、保守管理費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費との合計である。利用人員に連動する経費で上記

営業経費に該当しないものである。

全規模で前年より増加となった。

- ・大旅館 16.7% (+2.1p、+14.4%)
- ・中旅館 15.8% (+0.1p、+0.6%)
- ・小旅館 14.9% (+0.6p、+4.2%)

黒字・赤字別でみると、総じて赤字旅館が高くなっている。

- ・大旅館 黒字16.1% 赤字 18.5%
- ・中旅館 黒字14.3% 赤字 18.7%
- ・小旅館 黒字14.1% 赤字 17.0%

(ホテル) 業務費率は15.0%となっている。

表16 経費率

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
人件費率	平成25年	30.3	30.7	35.3	30.9	29.8
	26年	30.5	32.2	35.2	31.6	34.5
	27年	30.3	31.8	34.3	31.4	32.8
	28年	31.4	33.2	35.3	32.5	34.0
	29年	31.6	34.0	35.8	32.8	31.8
	30年	32.9	34.6	37.4	34.0	37.9
営業費率	平成25年	13.0	13.9	12.1	13.3	11.5
	26年	13.5	14.1	12.7	13.6	10.4
	27年	13.8	14.1	11.7	13.7	9.2
	28年	13.8	14.8	14.1	14.3	9.4
	29年	11.0	10.8	11.4	11.0	9.6
	30年	11.4	10.2	10.1	10.8	8.7
業務費率	平成25年	—	—	—	—	—
	26年	—	—	—	—	—
	27年	—	—	—	—	—
	28年	—	—	—	—	—
	29年	14.6	15.7	14.3	15.0	11.2
	30年	16.7	15.8	14.9	16.2	15.0
管理費率	平成25年	21.8	22.9	21.0	22.2	25.2
	26年	20.2	20.3	20.1	20.2	19.4
	27年	19.9	21.1	21.4	20.6	21.4
	28年	19.5	20.1	18.9	19.6	22.4
	29年	8.7	10.0	10.3	9.3	12.7
	30年	6.4	9.4	10.1	7.9	11.7
減価償却費率	平成25年	6.1	5.7	6.8	6.0	4.9
	26年	7.0	6.7	6.9	6.9	9.6
	27年	5.5	5.3	6.0	5.5	5.4
	28年	5.8	6.2	5.5	5.9	6.6
	29年	6.1	5.4	5.8	5.8	5.4
	30年	6.2	5.6	4.5	5.8	6.0
支払利息率	平成25年	2.8	2.7	2.1	2.7	2.1
	26年	2.6	2.5	1.7	2.5	1.3
	27年	2.1	2.1	1.9	2.1	2.0
	28年	2.2	2.2	1.5	2.1	2.7
	29年	2.3	1.7	1.3	2.0	3.5
	30年	1.9	2.0	1.2	1.9	1.7

(4) 管理費率

$$\text{管理費率} = \text{管理費} \div \text{総売上高} \times 100$$

管理費は、リース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、保険料、租税公課、事務用消耗品費、雑費の合計であり、固定的な経費である。

大旅館ほど低くなっている。

- ・大旅館 6.4% (▲2.3p、▲26.4%)
- ・中旅館 9.4% (▲0.6p、▲6.0%)
- ・小旅館 10.1% (▲0.2p、▲1.9%)

赤字旅館が高い。

- ・大旅館 黒字6.1% 赤字 7.4%
- ・中旅館 黒字8.2% 赤字 11.9%
- ・小旅館 黒字10.0% 赤字 10.1%

(ホテル)管理費率は11.7%となっている。

(5) 減価償却費率

$$\text{減価償却費率} = \text{減価償却費} \div \text{総売上高} \times 100$$

建物や設備などの資産価値を毎年減価償却する経費である。平均では前年なみとなっている。

- ・大旅館 6.2% (+0.1p、+1.6%)
- ・中旅館 5.6% (+0.2p、+3.7%)
- ・小旅館 4.5% (▲1.3p、▲22.4%)

赤字の大旅館が最も高い。

- ・大旅館 黒字5.5% 赤字 8.3%
- ・中旅館 黒字5.7% 赤字 5.5%
- ・小旅館 黒字4.2% 赤字 5.0%

(ホテル)減価償却費率は6.0%となっている。

(6) 支払利息率

$$\text{支払利息率} = \text{支払利息} \div \text{総売上高} \times 100$$

支払利息率は売上高に占める支払利息の割合である。小旅館が低い。

- ・大旅館 1.9% (▲0.4p、▲17.4%)
- ・中旅館 2.0% (+0.3p、+17.6%)
- ・小旅館 1.2% (▲0.1p、▲7.7%)

(ホテル)支払利息率は1.7%となっている。

9. 利益率 〈図7、表17、表18〉

利益とは「売上－経費」である。売上から原価を差し引いた売上総利益、売上総利益から諸経費を差し引いた営業利益など各段階ごとに利益を算出している。

(1) 売上総利益率

$$\text{売上総利益率} = \text{売上総利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

原価率が低下することで、売上総利益率はわずかずつつであるが上昇傾向にある。今年度の旅館平均は76.7%と前年と比較すると0.2p上昇した。規模別では、大旅館と小旅館で低下している。

- ・大旅館 75.6% (▲0.2p、▲0.3%)
- ・中旅館 77.7% (+0.5p、+0.6%)
- ・小旅館 77.9% (▲1.1p、▲1.4%)

黒字に注目すると小旅館が最も高い。

- ・大旅館 黒字75.3% 赤字 76.7%
- ・中旅館 黒字77.9% 赤字 77.4%
- ・小旅館 黒字79.1% 赤字 75.0%

(ホテル) 売上総利益率は82.5%となっている。

(2) GOP 利益率 (償却前営業利益率)

$$\text{GOP 利益率} = (\text{減価償却費} + \text{営業利益}) \div \text{総売上高} \times 100$$

GOP利益は、売上高から運営経費を控除した利益である。GOPは Gross Operating Profit の略で、直訳すれば「運営総利益」である。Profitは利益であるからGOP利益という表現は不適切だがあえて利益をつけている。

運営経費には減価償却費や固定資産税、支払利息は含まないとされるが、この調査では減価償却費と営業利益の合計でGOP利益を求めている。

GOP利益を求める根拠は所有と運営を分離して把握したいという考えから来ている。すなわち、GOP利益は支配人など運営トップの成績表といえる。

GOP利益率は大旅館が高いが、中旅館のみ前年を上回る。

- ・大旅館 8.3% (▲1.6p、▲16.2%)
- ・中旅館 7.7% (+0.9p、+13.2%)
- ・小旅館 5.5% (▲1.7p、▲23.6%)

黒字・赤字別では差が顕著になっている。

- ・大旅館 黒字9.4% 赤字 4.7%
 - ・中旅館 黒字11.5% 赤字 0.0%
 - ・小旅館 黒字9.1% 赤字 ▲3.7%
- (ホテル) GOP利益率は9.3%と旅館を上回る。

(3) 営業利益率

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

営業利益率は中旅館のみ前年を上回る。

- ・大旅館 2.1% (▲1.7p、▲44.7%)
- ・中旅館 2.1% (+0.8p、+61.5%)
- ・小旅館 1.1% (▲0.4p、▲26.7%)

黒字・赤字別では営業利益率の差は顕著になっている。中旅館と小旅館で差は10pを超える。

- ・大旅館 黒字3.9% 赤字 ▲3.5%
- ・中旅館 黒字5.8% 赤字 ▲5.5%
- ・小旅館 黒字4.9% 赤字 ▲8.8%

(ホテル) 営業利益率は3.3%と旅館より高い。

図7 営業利益率の推移 (%)

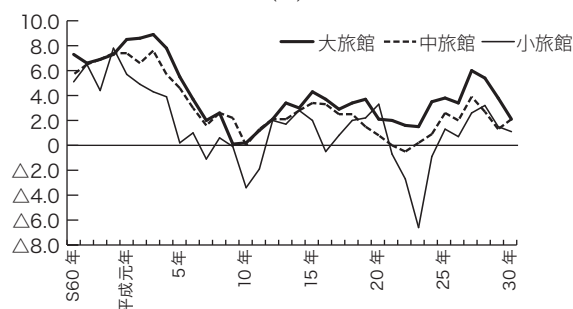


表17 利益率

(単位: %)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総利益率	平成25年	74.9	75.8	76.6	75.4	79.4
	26年	74.6	75.3	75.7	75.0	73.9
	27年	75.6	76.1	76.0	75.9	74.4
	28年	75.8	76.9	77.1	76.4	78.3
	29年	75.8	77.2	79.0	76.5	77.5
	30年	75.6	77.7	77.9	76.7	82.5
GOP利益率	平成25年	9.8	8.3	8.1	9.1	12.9
	26年	10.4	8.7	7.7	9.5	9.6
	27年	11.6	9.2	8.6	10.2	10.9
	28年	11.1	8.8	8.7	10.0	12.6
	29年	9.9	6.8	7.2	8.5	12.2
	30年	8.3	7.7	5.5	7.8	9.3
営業利益率	平成25年	3.8	2.6	1.3	3.1	8.0
	26年	3.4	2.0	0.7	2.7	3.7
	27年	6.0	3.9	2.6	4.7	5.5
	28年	5.4	2.7	3.2	4.1	6.0
	29年	3.8	1.3	1.5	2.7	6.8
	30年	2.1	2.1	1.1	2.0	3.3

(4) 経常利益率

$$\text{経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

低金利による支払利息の減少と雑収などにより経常利益率は営業利益率をわずかながら上回る。本業以外の収益により経常黒字を確保したといえる。大旅館が低下したことで規模格差がみられない。

- ・大旅館 2.3% (▲1.5p、▲39.5%)
- ・中旅館 2.1% (+0.3p、+16.7%)
- ・小旅館 2.8% (+1.0p、+55.6%)

黒字・赤字別とはこの経常利益を基準としている。黒字・赤字別では各規模とも10p以上の開きがある。

- ・大旅館 黒字4.9% 赤字 ▲6.0%
- ・中旅館 黒字6.1% 赤字 ▲5.7%
- ・小旅館 黒字6.2% 赤字 ▲5.9%

(ホテル) 経常利益率は4.0%と旅館を上回っている。

(5) 償却前利益率

$$\text{償却前利益率} = (\text{減価償却費} + \text{経常利益}) \div \text{総売上高} \times 100$$

経常利益に減価償却費を加えて求めたのが、償却前利益である。減価償却費は資産償却のため現金の支出を伴わない。したがって、償却前利益が営業上発生する現金である。法人税を考慮しなければならないが、基本的に償却前利益が借入金の返済原資となる。大旅館と小旅館で前年を下回る。

- ・大旅館 8.5% (▲1.4p、▲14.1%)
- ・中旅館 7.8% (+0.6p、+8.3%)
- ・小旅館 7.3% (▲0.3p、▲3.9%)

(ホテル) 償却前利益率は10.0%と旅館より高い。

表18 利益率 (単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
経常利益率	平成25年	3.6	2.0	2.3	2.8	6.8
	26年	2.6	1.5	1.2	2.1	4.8
	27年	5.6	3.4	3.5	4.3	6.1
	28年	4.7	2.2	3.5	3.6	3.7
	29年	3.8	1.8	1.8	2.9	6.6
	30年	2.3	2.1	2.8	2.3	4.0
償却前利益率	平成25年	9.6	7.6	9.1	8.8	11.7
	26年	9.6	8.2	8.1	8.9	10.7
	27年	11.1	8.6	9.5	9.8	11.5
	28年	10.5	8.3	9.0	9.5	10.3
	29年	9.9	7.2	7.6	8.8	12.0
	30年	8.5	7.8	7.3	8.1	10.0

10. 就業者 (表19、表20)

旅館ホテル業には様々な雇用形態の人が従事している。この調査では常勤者である常勤役員、正社員、常勤パートタイマーを就業者としている。

(1) 就業者数

$$\text{就業者数} = \text{常勤役員} + \text{正社員} + \text{常勤パートタイマー}$$

1軒当たり就業者数は規模に比例している。

- ・大旅館 178人 (+4人、+2.3%)
- ・中旅館 90人 (+18人、+25.0%)
- ・小旅館 31人 (+3人、+10.7%)

(ホテル) 1軒当たり就業者数は21人となっている。

(2) 正社員の平均年齢

男性は平均で46.0歳と前年より0.1歳高齢となった。大旅館が若い。

- ・大旅館 42.2歳 (▲1.6歳、▲3.7%)
- ・中旅館 47.0歳 (+1.6歳、+3.5%)
- ・小旅館 46.9歳 (▲0.9歳、▲1.9%)

女性は平均で42.2歳となっている。新卒の採用がある大旅館は若い。小旅館の年齢は高いが前年より3.3歳若返る。

- ・大旅館 36.9歳 (▲1.6歳、▲4.2%)
- ・中旅館 42.7歳 (+0.3歳、+0.7%)
- ・小旅館 44.7歳 (▲3.3歳、▲6.9%)

表19 就業者数 (単位: 人)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
就業者数	平成25年	165	75	28	78	34
	26年	152	69	25	72	77
	27年	168	78	28	74	86
	28年	143	67	31	68	30
	29年	174	72	28	80	55
	30年	178	90	31	91	21

表20 正社員の平均年齢 (単位: 歳)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
男性	平成25年	42.8	45.2	46.5	45.1	44.7
	26年	42.0	45.8	45.1	44.8	42.5
	27年	42.5	45.8	46.1	45.4	43.3
	28年	42.8	46.6	46.5	45.9	48.6
	29年	43.8	45.4	47.8	45.9	44.2
	30年	42.2	47.0	46.9	46.0	48.0
女性	平成25年	37.3	42.1	46.0	42.3	41.0
	26年	36.2	41.9	46.9	42.3	42.1
	27年	36.7	42.5	47.3	43.2	39.4
	28年	36.6	43.8	45.4	43.1	44.2
	29年	38.5	42.4	48.0	43.5	39.8
	30年	36.9	42.7	44.7	42.2	42.3

11. 従業員効率 〈図 8、表 21、表 22〉

(1) 1 室当り就業者数

$$1 \text{ 室当り就業者数} = \text{就業者数} \div \text{客室数}$$

1室当り就業者数は1.31人で前年よりやや増員となっている。

- ・大旅館 1.06人 (+0.01人、+1.0%)
- ・中旅館 1.58人 (+0.28人、+21.5%)
- ・小旅館 1.64人 (+0.16人、+10.8%)

黒字・赤字別をみると、黒字旅館の方が人は多い。

- ・大旅館 黒字1.09人 赤字 1.01人
- ・中旅館 黒字1.71人 赤字 1.38人
- ・小旅館 黒字1.73人 赤字 1.49人

(ホテル) 1室当り就業者数は0.32人で旅館より人が少ない。

(2) 就業者 1 人当り年間宿泊人員

$$\text{就業者 1 人当り年間宿泊人員} = \frac{\text{年間宿泊利用人員}}{\text{就業者数}}$$

就業者1人当りの宿泊人員は前年を100人近く下回る。大旅館と中旅館が大きく落ち込む。

- ・大旅館 529人 (▲114人、▲17.7%)
- ・中旅館 378人 (▲87人、▲18.7%)
- ・小旅館 322人 (▲14人、▲4.2%)

黒字・赤字別でみると顕著な人員差はみられない。

- ・大旅館 黒字535人 赤字 511人
- ・中旅館 黒字380人 赤字 375人
- ・小旅館 黒字328人 赤字 310人

(ホテル) 就業者1人当りの宿泊人員は922人と旅館の倍を超える。

(3) 就業者 1 人当り人件費

$$\text{就業者 1 人当り人件費} =$$

$$(\text{外注費などを含む}) \text{ 人件費} \div \text{就業者数}$$

人件費には正規給与の他に外注費や臨時・アルバイトの給与、法定福利費などが含まれる。人件費をあえて就業者数で割り出している。大旅館が多く小旅館が少ない。

- ・大旅館 354万円 (▲55万円、▲13.4%)
- ・中旅館 270万円 (▲25万円、▲8.5%)
- ・小旅館 261万円 (+19万円、+7.9%)

黒字・赤字別をみると、大旅館と小旅館では黒字の

方が人件費は高い。

- ・大旅館 黒字358万円 赤字 343万円
- ・中旅館 黒字257万円 赤字 296万円
- ・小旅館 黒字274万円 赤字 236万円

(ホテル) 就業者1人当り人件費は387万円と旅館より高い。

(4) 労働生産性

$$\text{労働生産性} = \text{売上総利益} \div \text{就業者数}$$

労働生産性は就業者1人当り売上総利益であり人件費支払いの原資といえる。大旅館で高く小旅館で低い、大旅館では前年を大きく下回っている。

表 21 従業員効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室 当り 就業者 数 (人)	平成25年	0.91	1.27	1.52	1.12	0.64
	26年	0.96	1.25	1.40	1.12	0.75
	27年	1.08	1.32	1.49	1.25	0.96
	28年	0.96	1.20	1.58	1.13	0.45
	29年	1.05	1.30	1.48	1.19	0.81
	30年	1.06	1.58	1.64	1.31	0.32
就業者 1人 当り 宿泊 人員 (人)	平成25年	590	457	308	494	494
	26年	624	442	369	514	475
	27年	562	454	360	478	355
	28年	643	491	357	528	696
	29年	643	465	336	532	482
	30年	529	378	322	438	922
就業者 1人 当り 人件 費 (万円)	平成25年	388	270	270	321	333
	26年	370	278	287	320	357
	27年	383	292	257	319	289
	28年	416	291	266	336	276
	29年	409	295	242	341	247
	30年	354	270	261	306	387

表 22 労働生産性、労働分配率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
労働生産性 (万円)	平成25年	828	658	593	718	551
	26年	906	658	609	762	765
	27年	954	699	568	770	654
	28年	1,005	675	580	789	635
	29年	982	670	526	796	603
	30年	813	607	544	690	843
労働分配率 (%)	平成25年	40.5	40.5	46.2	40.9	37.5
	26年	40.9	42.8	46.6	42.1	46.7
	27年	40.1	41.7	45.1	41.4	44.1
	28年	41.4	43.1	45.8	42.6	43.4
	29年	41.7	44.0	45.4	42.8	41.0
	30年	43.5	44.5	48.0	44.3	45.9

- ・大旅館 813万円 (▲169万円、▲17.2%)
- ・中旅館 607万円 (▲63万円、▲9.4%)
- ・小旅館 544万円 (+18万円、+3.4%)

黒字・赤字別でみると、大旅館と小旅館で顕著な差がみられる。

- ・大旅館 黒字840万円 赤字 740万円
- ・中旅館 黒字605万円 赤字 611万円
- ・小旅館 黒字607万円 赤字 425万円

(ホテル)労働生産性は843万円と旅館を上回る。

(5) 労働分配率 (図8)

$$\text{労働分配率} = \text{人件費} \div \text{売上総利益} \times 100$$

売上総利益に占める人件費の割合が労働分配率である。旅館ホテル経営では労働分配率40%以内が基準と言われる。小旅館では48.0%と高い。大旅館と中旅館は3年連続の上昇となっている。

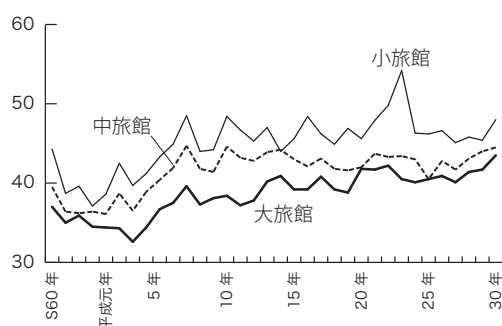
- ・大旅館 43.5% (+1.8p、+4.3%)
- ・中旅館 44.5% (+0.5p、+1.1%)
- ・小旅館 48.0% (+2.6p、+5.7%)

黒字・赤字別でみると、各規模とも赤字旅館が高い。特に小旅館では10.4p差がある。赤字小旅館の労働分配率は55%を超える。

- ・大旅館 黒字42.6% 赤字46.3%
- ・中旅館 黒字42.6% 赤字48.4%
- ・小旅館 黒字45.2% 赤字55.6%

(ホテル)45.9%と前年を上回り、かつ旅館を超える。

図8 労働分配率の推移 (%)



12. 建物面積効率 (表23)

(1) 1室当り建物延べ面積

$$1 \text{ 室当り建物延べ面積} = \text{建物延べ面積} \div \text{客室数}$$

小旅館の1室当り面積が小さい。会議室など客室以外の付帯施設の差であると考えられる。中旅館が最も広い。

- ・大旅館 131㎡ (▲23㎡、▲14.9%)
- ・中旅館 165㎡ (+20㎡、+13.8%)
- ・小旅館 128㎡ (+12㎡、+10.3%)

黒字・赤字別でみると、大旅館、小旅館では赤字旅館が広い。

- ・大旅館 黒字123㎡ 赤字 146㎡
- ・中旅館 黒字172㎡ 赤字 155㎡
- ・小旅館 黒字122㎡ 赤字 136㎡

(ホテル)1室当り建物延べ面積は83㎡となっている。

(2) 定員1人当り延べ面積

$$\text{定員1人当り延べ面積} = \text{建物延べ面積} \div \text{収容定員}$$

1室当り面積と同様に大旅館と中旅館で入れ替わりが生じた。

- ・大旅館 31.8㎡ (▲2.7㎡、▲7.8%)
- ・中旅館 35.3㎡ (+3.7㎡、+11.7%)
- ・小旅館 30.8㎡ (+3.2㎡、+11.6%)

(ホテル)定員面積は44.7㎡と旅館より広い。

表23 建物面積効率 (単位: ㎡)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室当り延べ面積	平成25年	143	145	119	142
	26年	144	147	135	145
	27年	143	147	122	143
	28年	153	142	123	145
	29年	154	145	116	147
	30年	131	165	128	146
定員1人当り延べ面積	平成25年	34.9	31.5	28.2	32.9
	26年	33.3	33.2	33.0	33.2
	27年	33.2	32.1	27.8	32.0
	28年	33.8	31.7	29.3	32.4
	29年	34.5	31.6	27.6	32.7
	30年	31.8	35.3	30.8	33.4

13. 資本効率・資金回収年数 〈表 24〉

(1) 総資本利益率

$$\text{総資本利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本利益率は総資本に対する経常利益の割合を示す。大旅館で前年を下回る。

- ・大旅館 1.3% (▲0.7p、▲35.0%)
- ・中旅館 1.2% (+0.0p、+0.0%)
- ・小旅館 2.5% (+1.0p、+66.7%)

黒字・赤字別では顕著な差が現れている。

- ・大旅館 黒字3.0% 赤字 ▲2.8%
- ・中旅館 黒字3.6% 赤字 ▲3.5%
- ・小旅館 黒字4.7% 赤字 ▲4.8%

(ホテル)2.0%と旅館より高い。

(2) 総資本回転率

$$\text{総資本回転率} = \text{総売上高} \times \text{総資本}$$

総資本回転率は、総資本に対する売上高である。この数値が高いほど投下した資本がよく回っているといえる。したがって高いほどよい。

総資本回転率は、業界ごとに標準値が異なる。旅館ホテルは一般に新增改築の直後は低く、資産償却が進むに従って高い値を示す。大旅館で低く、小旅館で高くなっている。

- ・大旅館 0.57回 (+0.03回、+5.6%)
- ・中旅館 0.60回 (▲0.14回、▲18.9%)
- ・小旅館 0.80回 (+0.10回、+14.3%)

大旅館を除き、黒字・赤字別では差がみられない。

- ・大旅館 黒字0.61回 赤字 0.46回
- ・中旅館 黒字0.61回 赤字 0.60回
- ・小旅館 黒字0.80回 赤字 0.80回

(ホテル)総資本回転率は0.50回となっている。

(3) 資金回収年数

$$\text{資金回収年数} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div (\text{減価償却費} + \text{経常利益})$$

資金回収年数は借入金が理論上何年で完済するかをみる指標である。減価償却費と経常利益の合計額を原資として、その全額を借入金返済にあてると

いう計算となっている。

借入金が少なく利益が多ければ、回収年数は短くなる。資金回収年数は小さい数値ほどよい。

大旅館では収益性の低下から、また中旅館は借入金依存度の上昇のためともに長期化している。

- ・大旅館 12.9年 (+1.0年、+8.4%)
- ・中旅館 16.2年 (+2.4年、+17.4%)
- ・小旅館 10.2年 (▲0.4年、▲3.8%)

黒字・赤字別の差は顕著である。黒字旅館は各規模とも10年を下回るが、大旅館の赤字では返済に82年かかる計算となる。中旅館と小旅館は償却前利益が赤字のため回収不能となっている。

- ・大旅館 黒字8.2年 赤字 82.5年
- ・中旅館 黒字9.7年 赤字 一年
- ・小旅館 黒字7.6年 赤字 一年

(ホテル)資金回収年数は12.5年となっている。

表24 資本効率・資金回収年数

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総資本利益率(%)	平成25年	2.1	1.1	1.9	1.6	2.3
	26年	1.2	1.2	1.4	1.2	2.5
	27年	3.6	2.0	2.1	2.7	2.2
	28年	2.3	1.6	2.6	2.1	1.4
	29年	2.0	1.2	1.5	1.8	3.9
	30年	1.3	1.2	2.5	1.3	2.0
総資本回転率(回)	平成25年	0.54	0.55	0.66	0.55	0.64
	26年	0.63	0.69	0.71	0.66	0.40
	27年	0.58	0.59	0.62	0.59	0.35
	28年	0.59	0.68	0.73	0.64	0.43
	29年	0.54	0.74	0.70	0.61	0.53
	30年	0.57	0.60	0.80	0.60	0.50
資金回収年数(年)	平成25年	11.5	16.3	13.2	13.3	13.3
	26年	14.5	13.9	11.7	14.1	6.0
	27年	9.4	12.0	11.2	10.6	7.2
	28年	13.7	13.4	10.0	13.1	21.2
	29年	11.9	13.8	10.6	12.3	13.3
	30年	12.9	16.2	10.2	13.9	12.5

Ⅱ. 全件調査

以下の項目は、回答された全ての調査票を対象に集計している。

1. 集客の方法 〈図9、表25〉

(1) 予約方法

お客様はどのような方法で旅館ホテルを予約されているのであろうか。リアルエージェントと言われる旅行業、インターネット窓口であるネット業者、自社サイトのそれぞれの比率を設問している。図9の「直接その他」は100%から引き算で算出している。

(2) 旅行業経由

$$\text{旅行業経由} = \frac{\text{旅行業経由の宿泊人員}}{\text{年間延べ宿泊人員}} \times 100$$

旅行業経由の宿泊人員は長期に低下している。大旅館と中旅館で前年を上回り、小旅館は前年を下回った。

- ・大旅館 46.1% (+3.4p、+8.0%)
- ・中旅館 38.7% (+0.9p、+2.4%)
- ・小旅館 28.3% (▲3.5p、▲11.0%)

黒字・赤字別でみると、大旅館には大差はなく、中旅館小旅館では赤字旅館の方が旅行業経由の率は高い。

- ・大旅館 黒字46.1% 赤字 45.9%
- ・中旅館 黒字36.4% 赤字 45.0%
- ・小旅館 黒字24.6% 赤字 36.6%

(ホテル)旅行業経由は22.2%となっている。

(3) ネット業者経由

$$\text{ネット業者経由} = \frac{\text{ネット経由の宿泊人員}}{\text{年間延べ宿泊人員}} \times 100$$

ネット業者経由の宿泊人員はすべての規模で前年を上回った。

- ・大旅館 25.7% (+1.4p、+5.8%)
- ・中旅館 26.9% (+1.2p、+4.7%)
- ・小旅館 34.2% (+6.4p、+23.0%)

ネット業者経由では黒字赤字に違いがみられない。

- ・大旅館 黒字26.0% 赤字 24.6%
- ・中旅館 黒字27.5% 赤字 27.9%
- ・小旅館 黒字34.8% 赤字 32.8%

(ホテル)38.4%と旅館より高い。

(4) 自社サイト経由の宿泊人員

$$\text{自社サイト経由の構成比} = \frac{\text{自社サイトよりの宿泊人員}}{\text{年間延べ宿泊人員}} \times 100$$

自社サイト経由の宿泊人員は小旅館が18.5%と高い。10%未満だった大旅館も2年連続10%台となっている。旅館ホテルにとっては手数料のかからない自社サイトからの予約を増やしたいところである。

- ・大旅館 11.1% (+0.8p、+7.8%)
- ・中旅館 12.6% (+2.1p、+20.0%)
- ・小旅館 18.5% (+3.5p、+23.3%)

小旅館では黒字旅館が大幅に高い。大旅館では赤字旅館が高い。

- ・大旅館 黒字9.7% 赤字 16.3%
- ・中旅館 黒字13.1% 赤字 11.3%
- ・小旅館 黒字21.5% 赤字 11.7%

(ホテル)自社サイトは9.9%となっている。

図9 宿泊人員構成 (単位：%)

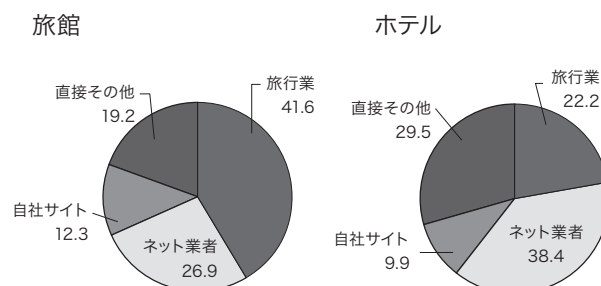


表25 集客の方法

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホ テ ル
旅行業経由	平成25年	53.6	49.2	23.5	50.0	20.6
	26年	48.3	43.4	27.1	44.6	22.2
	27年	50.0	44.0	21.4	44.2	21.1
	28年	52.1	41.1	30.9	44.9	10.0
	29年	42.7	37.8	31.8	40.3	18.4
	30年	46.1	38.7	28.3	41.6	22.2
ネット業者経由	平成25年	15.9	20.9	34.9	19.2	43.9
	26年	17.3	21.9	34.1	20.6	35.6
	27年	19.7	26.5	35.5	24.6	43.9
	28年	20.1	27.3	28.6	24.1	44.9
	29年	24.3	25.7	27.8	25.0	41.1
	30年	25.7	26.9	34.2	26.9	38.4
自社サイトより	平成25年	9.6	11.4	22.8	11.2	13.1
	26年	9.3	13.2	21.9	11.9	9.8
	27年	8.7	12.0	18.6	11.3	10.6
	28年	7.9	10.9	15.6	10.1	15.7
	29年	10.3	10.5	15.0	10.7	10.4
	30年	11.1	12.6	18.5	12.3	9.9

2. ホームページ〈表 26、表 27、表 28〉

(1) ホームページの対応言語

ホームページの対応言語が「日本語のみ」は年々低下し31.2%となっている。

外国語対応では英語が最も多い。次いで、香港や台湾で用いられている繁体字(中国語)、中国大陆で用いられている簡体字(中国語)、韓国語となっている。

- ・英語 66.1% (+3.4p)
- ・繁体字 38.6% (▲0.1p)
- ・簡体字 29.1% (▲4.2p)
- ・韓国語 25.4% (▲5.7p)
- ・タイ語 3.2% (▲3.5p)
- ・日本語のみ 31.2% (▲4.8p)

(ホテル)日本語のみが57.1%となっている。

(2) 予約機能

ホームページからの即時予約は89.9%が可能としている。大旅館と小旅館では前年を下回った。

- ・大旅館 92.1% (▲5.6p、▲5.7%)
- ・中旅館 94.3% (+2.4p、+2.6%)
- ・小旅館 82.5% (▲7.0p、▲7.8%)

(ホテル)92.9%となっている。

(3) 対応言語

即時予約可能なHPがある場合の対応言語は、日本語のみが42.9%で、英語53.5%となっている。次いで、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、韓国語の順となっている。タイ語やスペイン語の対応もみられる。HPの開設対応言語と即時予約では外国語対応に若干ひらきがある。

(ホテル)日本語のみは69.2%で、英語は30.8%となっている。英語に次いで、中国語の繁体字、簡体字さらに韓国語が15.4%と並ぶ。ホテルの外国語対応は旅館より低い。

表26 自社ホームページの対応言語 (単位：%)

年 度		英語	中国語		韓国語	タイ語	フランス語	ドイツ語	スペイン語	その他	日本語のみ
			繁体字	簡体字							
旅 館	25 年	39.1	20.1	15.1	13.0	0.7	0.7	0.0	—	2.7	56.2
	26 年	40.7	20.3	14.9	13.6	0.3	0.3	0.7	—	0.3	54.2
	27 年	49.0	23.7	15.6	15.6	1.3	0.6	0.6	—	0.3	45.5
	28 年	54.1	33.1	23.0	22.3	3.9	2.3	1.3	—	1.6	40.3
	29 年	62.7	38.7	33.3	31.1	6.7	3.1	2.7	2.2	1.3	36.0
	30 年	66.1	38.6	29.1	25.4	3.2	0.5	1.1	1.1	1.1	31.2
ホ テ ル	25 年	50.0	17.9	10.7	14.3	0.0	0.0	0.0	—	0.0	42.9
	26 年	28.6	14.3	10.7	10.7	0.0	0.0	0.0	—	0.0	67.9
	27 年	36.4	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	60.6
	28 年	42.9	25.0	17.9	21.4	3.6	0.0	0.0	—	0.0	57.1
	29 年	70.0	36.7	23.3	30.0	10.0	3.3	6.7	3.3	3.3	30.0
	30 年	42.9	28.6	28.6	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1

(注) タイ語、仏語、独語は25年調査より設問している。

表27 自社ホームページについて (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
自社専用HPがある	平成25年	100.0	97.6	86.3	93.6	92.9
	26年	100.0	97.2	89.8	94.5	93.9
	27年	100.0	93.9	89.5	93.1	89.3
	28年	96.6	93.9	82.9	92.8	—
	29年	100.0	100.0	98.7	99.6	96.8
	30年	97.4	94.3	93.7	94.7	85.7
HPから即時予約する事が可能	平成25年	96.2	90.3	76.9	86.1	85.7
	26年	100.0	92.3	76.6	86.7	90.9
	27年	98.0	90.9	81.5	88.2	82.1
	28年	98.0	90.9	81.5	88.2	82.1
	29年	97.7	91.9	89.5	92.2	87.5
	30年	92.1	94.3	82.5	89.9	92.9

表28 即時予約可能なHPがある場合の対応言語 (単位：%)

30年	英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	スペイン語	その他	日本語のみ
		繁体字	簡体字							
旅 館	53.5	27.6	22.9	21.2	2.9	0.0	0.0	0.6	1.2	42.9
ホ テ ル	30.8	15.4	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	69.2

3. 外国人宿泊客〈表29、表30、表31、表32、表33〉

(1) 外国人宿泊人員比率

外国人宿泊人員比率＝外国人宿泊人員

÷ 年間延べ宿泊人員 ×100

外国人宿泊人員比率は9.9%となっている。外国人宿泊人員は小旅館がリードしている。

- ・大旅館 10.3% (▲0.9p、▲8.0%)
- ・中旅館 9.1% (+1.0p、+12.3%)
- ・小旅館 11.9% (▲2.1p、▲15.0%)

(ホテル)外国人宿泊人員比率は10.5%となっている。

(2) 地域別外国人宿泊人員比率

地域別では前年よりも低下したものの北海道が19.7%と高い。次いで九州、関西となっている。今年度は東北、関東、中国の伸び率が強く外国人宿泊の地区別の平準化が若干であるが進んだ。

(3) 国籍別外国人宿泊人員

国籍別外国人＝国別の人員

÷ 外国人宿泊人員 ×100

訪日外国人の国籍は、観光庁入国統計では中国が最も多いが、この調査では台湾が最も多く23.8%を占め、次いで中国となっている。台湾の比率は低下傾向にある。シェアを伸ばしているのは韓国、米国、

その他となっている。

(ホテル)中国からの来訪が40.5%となっている。

(4) 外国人受け入れの意向

「積極的に受け入れたい」が増加し53.4%となっている。一方、「日本人観光客を優先する」は19.6%にとどまる。外国人の受け入れ意向を規模別にみると、「積極的に受け入れたい」は中旅館がもっとも高い。小旅館は「日本人優先」が他規模と比較が高い。(ホテル)「積極的に受け入れたい」は64.3%と高い。

表29 外国人宿泊人員比率 (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
平成 25 年	5.2	3.6	4.2	4.5	9.0
26 年	7.5	6.0	8.1	7.0	8.1
27 年	7.6	6.5	10.0	7.3	8.2
28 年	11.1	7.2	11.1	9.5	5.5
29 年	11.2	8.1	14.0	10.2	15.9
30 年	10.3	9.1	11.9	9.9	10.5

表30 地域別外国人宿泊人員比率 (単位：%)

地 域	29年	30年	前年比
北 海 道	24.0	19.7	82.2
東 北	2.0	3.1	155.4
関 東	7.1	10.3	144.2
北 陸 信 越	4.9	5.0	101.7
中 部	4.7	4.0	83.8
関 西	12.5	12.7	101.3
中 国	4.6	7.0	152.4
四 国	12.6	10.4	82.9
九 州	12.1	12.9	106.4

(注)この表では前年を100としています。

表31 国籍別外国人宿泊人員

(単位：%)

年 度		中 国	韓 国	台 湾	香 港	タ イ	米 国	英 国	その他不明
旅 館	平成 25 年	9.3	8.6	44.6	10.8	3.4	2.3	－	20.5
	26 年	15.6	8.2	36.6	12.4	4.1	2.4	－	20.0
	27 年	19.4	11.5	28.1	12.7	3.0	3.1	－	21.4
	28 年	23.3	15.5	26.3	12.6	4.0	3.0	－	14.6
	29 年	22.0	15.2	25.0	16.6	3.0	2.6	－	14.5
	30 年	19.3	16.1	23.8	16.1	2.7	3.6	0.6	17.7
ホ テ ル	平成 25 年	11.6	4.0	13.9	6.6	3.6	5.7	－	53.0
	26 年	15.5	8.7	15.2	5.2	4.1	4.8	－	44.8
	27 年	45.5	7.9	13.4	8.9	1.7	7.4	－	14.4
	28 年	16.6	10.4	9.8	6.9	6.8	9.3	－	38.7
	29 年	31.5	11.1	10.5	11.9	4.3	2.8	－	26.1
	30 年	40.5	10.6	6.2	4.9	1.8	3.9	0.6	31.5

4. インターネット対応 〈表 34、表 35〉

(1) サイトコントローラーの導入状況

多くの旅館ホテルは複数のネット業者と契約している。ネット業者に提供した客室管理を自動化するソフトがサイトコントローラーである。その導入状況は大旅館で94.7%となっているが、小旅館は79.4%と低い。

(ホテル) 導入状況は71.4%と旅館の平均よりも低い。

(2) 公衆無線 LAN の設置

公衆無線LANを設置しているのは、旅館平均では95.2%となっている。規模別では中旅館の設置が97.7%と高い。小旅館は92.1%にとどまる。

(ホテル) 公衆無線LANの設置は100%となっている。

(3) 公衆無線 LAN の設置場所

次に、公衆無線LANを設置済みの旅館ホテルを対象に設置場所を設問したところ、全館は72.8%となっている。規模別では中旅館が高く、また地域別では北海道、東北、北陸信越、関西などで全館導入が進む。

表 32 外国人の受け入れ意向 (単位：%)

年 度		積極的に 受け入れたい	高単価の外客 のみ受け入れ たい	日本人観光客 を優先する	外客は受け入 れたくない
旅 館	平成 25 年	40.5	25.4	27.8	2.7
	26 年	44.1	24.1	28.1	2.7
	27 年	45.1	26.6	21.4	2.9
	28 年	46.9	23.0	24.6	1.3
	29 年	49.4	22.9	22.9	1.7
	30 年	53.4	23.3	19.6	1.1
ホ テ ル	平成 26 年	50.0	17.9	28.6	3.6
	27 年	51.5	9.1	33.3	0.0
	28 年	42.9	7.1	46.4	3.6
	29 年	61.3	16.1	19.4	3.2
	30 年	64.3	0.0	35.7	0.0

表 33 規模別外国人の受け入れ意向 (単位：%)

平成 30 年度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
積極的に受け入れたい	52.6	55.7	50.8	53.4	64.3
高単価の外客のみ受け入れたい	26.3	25.0	19.0	23.3	0.0
日本人観光客を優先する	7.9	17.0	30.2	19.6	35.7
外客は受け入れたくない	2.6	0.0	1.6	1.1	0.0

全館導入ができていない旅館ホテルの設置場所でも多いのはロビーとなっている。大旅館では会議室での導入が比較的多くなっている。

(ホテル) 全館導入が71.4%となっている。

表 34 インターネット対応 (単位：%)

	サイトコントローラー (手間いらず、ねっばん、TL リンカーン等) を導入している	公衆無線 LAN を設置している
旅 館	85.2	95.2
大旅館	94.7	94.7
中旅館	85.2	97.7
小旅館	79.4	92.1
北海道	93.8	93.8
東北	85.7	95.2
関東	84.0	100.0
北陸信越	82.6	100.0
中部	86.4	100.0
関西	91.4	94.3
中国	85.7	92.9
四国	85.7	85.7
九州	68.4	89.5
黒字旅館	84.0	96.2
赤字旅館	87.9	93.1
ホテル	71.4	100.0

表 35 公衆無線 LAN の設置場所 (単位：%)

	全館	ロビー	客室	会議室	宴会場	その他
旅 館	72.8	27.2	15.6	3.3	2.8	0.6
大旅館	63.9	38.9	27.8	8.3	2.8	0.0
中旅館	76.7	24.4	11.6	2.3	3.5	1.2
小旅館	72.4	24.1	13.8	1.7	1.7	0.0
北海道	86.7	20.0	13.3	6.7	6.7	0.0
東北	85.0	15.0	10.0	5.0	5.0	0.0
関東	64.0	36.0	12.0	0.0	4.0	4.0
北陸信越	82.6	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0
中部	63.6	36.4	22.7	0.0	0.0	0.0
関西	78.8	21.2	9.1	3.0	0.0	0.0
中国	46.2	46.2	38.5	15.4	0.0	0.0
四国	75.0	25.0	25.0	8.3	8.3	0.0
九州	64.7	35.3	29.4	0.0	5.9	0.0
黒字旅館	77.8	22.2	11.1	1.6	1.6	0.8
赤字旅館	61.1	38.9	25.9	7.4	5.6	0.0
ホテル	71.4	28.6	21.4	7.1	7.1	0.0

5. クレジットカード&電子決済〈表 36〉

(1) クレジットカード決済

クレジットカード決済が可能な旅館ホテルは94.2%に及ぶ。中旅館が高い。地域別では東北が100%であった。

(ホテル) 92.9%が可能となっている。

(2) 決済端末の導入

カード決済が可能な旅館ホテルに決済端末の導入を設問した。全体では98.3%で大旅館は100%となっている。地域別では、北陸信越、四国と九州がやや低い、いずれも90%台となっている。

(ホテル) 決済端末の導入は100%となっている。

(3) PayPal 等の事前決済の導入状況

キャッシュレス化の流れを受けPayPal等の事前決済を設問した。事前決済の導入は中旅館で58.0%と導入がすすむ。地域別では中部、九州、東北の順で先行している。

(ホテル) 事前決済の導入は57.1%となっている。

(4) 電子決済の導入状況

〇〇Payなど電子決済が拡大している。その対応状況は旅館平均52.4%で中旅館が先行している。地域別をみると四国が先行し、北海道や関東が続く。

(ホテル) 電子決済の導入は42.9%となっている。

(5) カードや電子決済の割合

カードや電子決済の割合は30.2%で、小旅館が最も高い。クーポン券が発行される旅行業からの送客が多い大旅館ではカードや電子決済の割合は24.2%と比較的低い。

地域別でみると北陸信越や四国が高い。

(ホテル) 決済の割合は30.9%となっている。

むすび

会員同士であってもお互いの経営の内情を知り合うことは容易ではありません。この報告書は調査票をもとにした集計結果からなりますが、会員が業界の平均像を知り、自社の現状を再確認していただくことを意図しています。結果として、個々の会員が経営改善のための道筋を見い出せることを願っています。

ご協力頂いた旅館ホテルの各位に深く感謝し、全会員の益々の発展を祈念致しております。

表36 クレジットカード&電子決済 (単位: %)

	クレジットカード決済		PayPal 等 事前決済が 可能	〇〇Pay 等 電子決済が 可能	カード&電子 決済の割合
		決済端末を 導入			
旅館	94.2	98.3	56.1	52.4	30.2
大旅館	94.7	100.0	52.6	52.6	24.2
中旅館	97.7	98.8	58.0	60.2	30.4
小旅館	88.9	96.4	55.6	41.3	33.7
北海道	93.8	100.0	50.0	62.5	31.3
東北	100.0	100.0	61.9	57.1	26.1
関東	96.0	100.0	44.0	60.0	33.1
北陸信越	91.3	95.2	47.8	43.5	38.5
中部	90.9	100.0	77.3	50.0	23.8
関西	97.1	100.0	57.1	54.3	22.1
中国	92.9	100.0	50.0	21.4	33.2
四国	92.9	92.3	50.0	78.6	38.2
九州	89.5	94.1	63.2	42.1	30.5
黒字旅館	94.7	98.4	55.7	55.0	30.3
赤字旅館	93.1	98.1	56.9	46.6	30.1
ホテル	92.9	100.0	57.1	42.9	30.9

令和元年度 営業状況等統計調査票

①

直近の事業年度の決算等にもとづいて記入し、
令和元年8月31日(金)までにご提出ください。

1

A. 業態と地域 (必須)

業態		1. 主として夕食・朝食付きで販売している	2. 主としてルームチャージのみで販売している
----	--	-----------------------	-------------------------

地域	③	以下より該当する地域を1から9の番号をお選び下さい。
----	---	----------------------------

- 1 北海道 …………… 北海道
 2 東北 …………… 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
 3 関東 …………… 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
 4 北陸信越 …………… 新潟県、富山県、石川県、長野県
 5 中部 …………… 福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
 6 関西 …………… 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
 7 中国 …………… 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
 8 四国 …………… 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
 9 九州 …………… 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

B. 客室数と面積 (必須)

	和室の数			和洋室の数			洋室の数			合 計		
客室数	4		室	5		室	6		室	7		室

建物延べ面積	8		m ²
--------	---	--	----------------

C. 宿泊人員、営業日数等

収容定員	9		人
年間営業日数	10		日
年間販売可能客室数	11		室
年間延べ宿泊人員	12		人
旅行者経由の宿泊人員	13		人
ネット業者経由の宿泊人員	14		人
自社HPからの宿泊人員	15		人
宿泊人員のうち外国人	16		人
年間延べ日帰り食事利用人員	17		人
年間延べ利用客室数(宿泊のみ)	18		室

外国人の国籍			
中 国	19		人
韓 国	20		人
台 湾	21		人
香 港	22		人
タ イ	23		人
米 国	24		人
英 国	25		人
その他	26		人

裏面に続く

E-1. 損益計算書(消費税除く)

年 月 日 ~

年 月 日

科目		金額		摘要
人員	宿泊人員	27	千円	
	日帰人員	28	人	
客室	年間販売可能室	29	室	
	使用客室数	30	室	
	客室稼働率	31	%	
売上	宿泊料理売上	32	千円	
	飲物売上	33	千円	
	売店売上	34	千円	
	その他売上	35	千円	上記の3つの売上区分以外の売上を記載して下さい(日帰り売上等)
総売上高		36	千円	
仕入	期首棚卸残高	37	千円	期首棚卸残高の総額を記載ください
	料理仕入	38	千円	料理材料仕入
	飲料仕入	39	千円	酒類、清涼飲料水などの仕入
	売店仕入	40	千円	売店商品仕入
	その他仕入	41	千円	上記の3つの仕入区分以外の仕入を記載して下さい
	期末棚卸残高	42	千円	期末棚卸残高の総額を記載ください
売上原価		43	千円	決算書の売上原価を記入してください
売上総利益		44	千円	決算書の売上総利益を記入してください
	人件費	45	千円	別途計算用シートを同封しております。
	営業費	46	千円	
	業務費	47	千円	
	管理費	48	千円	
	減価償却費	49	千円	
経費合計		50	千円	
営業利益		51	千円	決算書の営業利益を記入してください(損失の場合△印)
	受取利息・配当金	52	千円	預貯金の受取利息、株式の配当金等
	雑収入	53	千円	売上げに該当しない収入。現金過剰等。
	家賃収入	54	千円	貸し地貸し家の賃貸収入
営業外収益		55	千円	
	支払利息	56	千円	借入金の支払利息、手形割引料等
	雑損	57	千円	経費計上に該当しない支出。現金不足など。
営業外費用		58	千円	
経常利益		59	千円	決算書の経常利益を記入してください(損失の場合△印)

F. 貸借対照表

令和 年 月 日現在

※直近の決算書よりご記入下さい

借 方				貸 方			
科目	金 額			科目	金 額		
流動資産	60		千円	流動負債	64		千円
固定資産	61		千円	(うち短期借入金)	65		千円
繰延資産	62		千円	固定負債	66		千円
				(うち長期借入金)	67		千円
				純資産の部 (資本金・剰余金)	68		千円
資産の部合計	63		千円	負債・資本の合計	69		千円

G. 就業者

区分	項目	就業者数	
	常勤役員	70	人
	正社員	71	人
	パートタイマー	72	人

注1. 就業者数(正社員・常勤パートタイマー)は、各月末の就業者数の合計(12ヶ月分)を12で除した平均値をご記入下さい。

H. 従業員(正社員)の平均年齢は何歳ですか

男性	73	歳	女性	74	歳
----	----	---	----	----	---

裏面に続く

I. 次の設問についてもよろしくご協力願います。 (該当する番号に「○」もしくは番号を右側の□(四角枠)にご記入ください) 4

Q1.サービス料について

1. サービス料(奉仕料)を設定している	2. 設定していない	75
(※予約段階でサ込み表示されていても、館内販売含め何らかの設定がある場合、設定しているにお答え下さい)		

Q2.インターネット対応の状況について

①	HP(ホームページ)の開設状況はいかがですか。	76
	1. 自社専用HPがある(次の2. は含まない) 2. 自社HPはなく、OTAだけで販売している	
	3. 自社HPはない	
②	HPの対応言語をお答えください。(複数回答)	77
	1. 日本語のみ 2. 英語 3. 中国語(繁体字) 4. 中国語(簡体字) 5. 韓国語 6. タイ語 7. フランス語	
	8. ドイツ語 9. スペイン語 10. その他()	
③	HPから即時予約することが可能ですか。	78
	1. はい 2. いいえ	
④	即時予約可能なHPがある場合、その対応言語に○をつけて下さい。	79
	1. 日本語のみ 2. 英語 3. 中国語(繁体字) 4. 中国語(簡体字) 5. 韓国語 6. タイ語 7. フランス語	
	8. ドイツ語 9. スペイン語 10. その他()	
⑤	スマホの対応のページがありますか。(複数回答)	80
	1. 日本語のみ 2. 英語 3. 中国語(繁体字) 4. 中国語(簡体字) 5. 韓国語 6. タイ語 7. フランス語	
	8. ドイツ語 9. スペイン語 10. その他()	
⑥	スマホから即時予約することが可能ですか。	81
	1. はい 2. いいえ	
⑦	即時予約可能なスマホページがある場合、その対応言語に○をつけて下さい。	82
	1. 日本語のみ 2. 英語 3. 中国語(繁体字) 4. 中国語(簡体字) 5. 韓国語 6. タイ語 7. フランス語	
	8. ドイツ語 9. スペイン語 10. その他()	
⑧	サイトコントローラー(手間いらず、ねっぱん、TLリンカーン等)を導入していますか。	83
	1. はい 2. いいえ	
⑨	無料公衆無線LAN(フリーWi-fi)を設置していますか。	84
	1. はい 2. いいえ	
⑩	【⑨の設問で1と答えた場合】 無料公衆無線LAN(フリーWi-fi)の設置場所はどちらですか。(複数回答)	85
	1. 全館 2. ロビー 3. 客室 4. 会議室 5. 宴会場 6. その他()	

Q3.外国人客の受け入れについて、近いと思われるものをお答え下さい

1. 積極的に受け入れたい	2. 高単価の外国人客のみ受け入れたい	3. 日本人観光客を優先する	86
4. 外国人客は受け入れたくない			

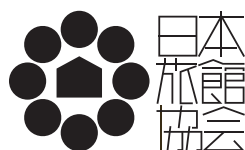
Q4.入浴施設

A.	露天風呂の有無(複数回答)	87
	1. 一般的な露天風呂 2. 客室露天風呂 3. 貸し切り露天風呂 4. 無	
B.	温泉の有無	88
	1. 有 2. 無	

Q5.クレジットカード&電子決済対応の状況について

①	クレジットカードによる決済は可能ですか	89
	1. 可 2. 不可	
②	決済処理にカード決済端末を導入していますか	90
	1. 導入している 2. 導入していない	
③	【②の設問で1と答えた場合】 どのカード決済端末を使っていますか	91
	1. J-Mups 2. C-REX 3. JET-S 4. その他()	
④	ネット予約時の事前決済(PayPal等)は可能ですか	92
	1. 可 2. 不可	
⑤	クレジットカード以外の電子決済(電子マネー、○○Pay等)は可能ですか	93
	1. 可 2. 不可	
⑥	総売上高に占めるクレジットカードもしくは電子決済の割合はどれくらいですか	
	回答	
	94	
	%	

ご協力ありがとうございました。



一般社団法人 **日本旅館協会**
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

令和2年1月
営業状況等統計調査(解説編)

発 行 一般社団法人 日本旅館協会
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-5-5
全国旅館会館2階
TEL : 03-5215-7337 FAX : 03-5215-7338

本書を許可無く複製する事は固く禁じます。許諾については当協会までご照会下さい。